



各 位

2025年5月14日

会 社 名 日本電子材料株式会社
代 表 者 代表取締役社長 坂田 輝久
(コード番号 6855 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 執行役員 管理部門統括部長 石本 浩久
電 話 06 (6482) 2007

中期経営計画の進捗状況に関するお知らせ

2024年5月14日に公表いたしました、「2024-2026年度JEMグループ中期経営計画」の進捗状況をお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画（2024-2026年度）の概要

当社グループは、半導体市場の更なる拡大を見込むなか、顧客ニーズに応えるプローブカードの開発と供給を社会的使命として、拡大する市場環境を支え、市場以上の成長を目指す「2024年度-2026年度の中期経営計画」を策定いたしました。

当社グループは、本中期経営計画の達成に向けて、積極的な設備投資・開発投資により製品力と生産キャパシティの強化を図るとともに、DX投資、人的投資、サステナビリティへの取り組みを推進し、更なる発展を目指しています。

2. 経営指標と2026年度目標

【経営指標】

- ・連結経常利益率 10%以上
- ・株主資本利益率（ROE）10%以上

【2026年度目標】

- ・連結売上高 30,000百万円
- ・連結経常利益 5,000百万円

3. 2025年3月期の進捗状況

実施1年目にあたる2025年3月期は、連結売上高・経常利益ともに業績予想を上回る結果となりました。背景として、設備投資による生産キャパシティ及び生産性の向上と、開発投資による製品力強化のもと、非メモリー向けプローブカードは需要が振るわなかったものの、メモリー向けプローブカードは、先端半導体用を中心に国内外に高付加価値製品の拡販を推進したことによります。

単位：百万円

	2024年度予想	2024年度実績	差異
連結売上高	20,600	23,829	+3,229
連結経常利益	3,400	4,640	+1,240

株主資本利益率（ROE）13.6%

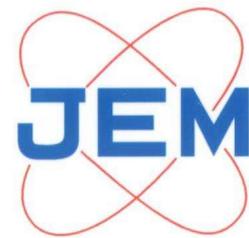
詳細につきましては添付資料「2024-2026年度JEMグループ中期経営計画（2024年度進捗状況）」をご参照願います。

注）本資料に記載されている内容は発表日現在における経済動向や市場環境をはじめとする情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想値と異なる結果となる場合があるほか、予想自体についても今後変更することがあります。

以 上

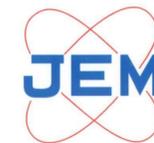
2025年5月14日

2024-2026年度 JEMグループ中期経営計画 (2024年度進捗状況)



日本電子材料株式会社

目次



経営理念／経営方針

2024年度の振り返り

市場動向の予測

2024-2026年度中期経営計画

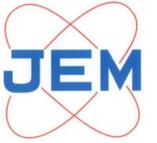
株主還元(配当方針)

中期経営計画の達成に向けて

成長に向けた取り組み

Your Probing Partner

経営理念／経営方針



経営理念

日本電子材料株式会社並びにグループ各社は、人類に幸福をもたらす技術の開発と製品化により社会に貢献する

経営方針

【透明性のある企業活動】 善良な企業市民として、法令及び規則の遵守と、倫理観をもった行動により、透明性のある企業活動を行います。

【新たな価値の提供】 顧客満足と社会発展へ貢献するために、現状にとらわれることなく、先を見据えた技術開発と、絶え間ない品質向上及び納期短縮に取り組み、社会に新たな価値を提供します。

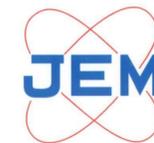
【グローバルな事業展開】 世界において親しまれ信頼される企業であるように、市場の変化とニーズに適応したグローバルな事業を展開します。

【利害関係者の尊重】 株主、顧客、取引先、従業員など、当社に関わる全ての方々とのより良い関係の構築とともに事業を発展するよう、利害関係者を尊重します。

【地球環境の保護】 私たち一人ひとりの行動と心がけが大切であるとの認識のもと、環境に配慮した企業活動を行うことにより、地球環境を守ります。

Your Probing Partner

2024年度の振り返り



■2024年度は、連結売上高・経常利益ともに、業績予想を上回る結果となりました。

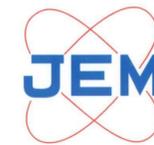
■背景として、設備投資による生産キャパシティ及び生産性の向上と、開発投資による製品力強化のもと、非メモリー向けプローブカードは需要が振るわなかったものの、メモリー向けプローブカードは、先端半導体用を中心に国内外に高付加価値製品の拡販を推進したことによります。

単位：百万円

	2024年度予想	2024年度実績	差異
連結売上高	20,600	23,829	+3,229
連結経常利益	3,400	4,640	+1,240

Your Probing Partner

市場動向の予測



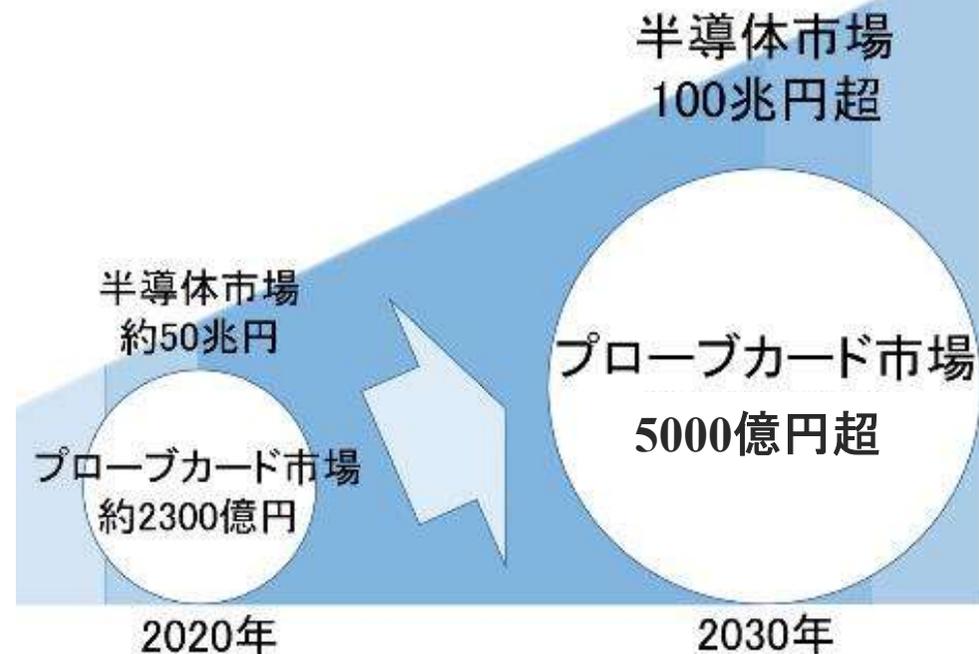
生成AIの普及に伴い、半導体市場は引き続き高付加価値な製品の需要拡大が期待されています。これにより、関連するプローブカード市場も堅調な成長が予想されています。

パソコンやスマートフォン向け半導体は、2025年後半に向けて緩やかな回復が見込まれています。しかし、米国の通商政策の動向により、半導体の流通が不安定になる可能性があり、これに伴って一時的な価格変動や在庫調整が発生する可能性があります。

一方、車載向け半導体は、EV市場の低迷を受けて一時的に減速する見込みですが、中長期的には成長が期待されています。

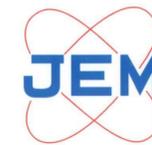
なお、米国の通商政策の影響については、直接的な影響は軽微と見込んでおりますが、間接的な影響についてはさらに注視してまいります。

半導体市場・プローブカード市場の成長見通し



出所：複数のデータを元に当社予測にもとづき記載。
なお、2030年市場予測は、USドルを日本円に換算しているため、為替相場の変動により増減する場合があります。

2024-2026年度中期経営計画



経営指標

常に連結経常利益率10%以上、
株主資本利益率 (ROE) 10%以上

2026年度
目標

売上高

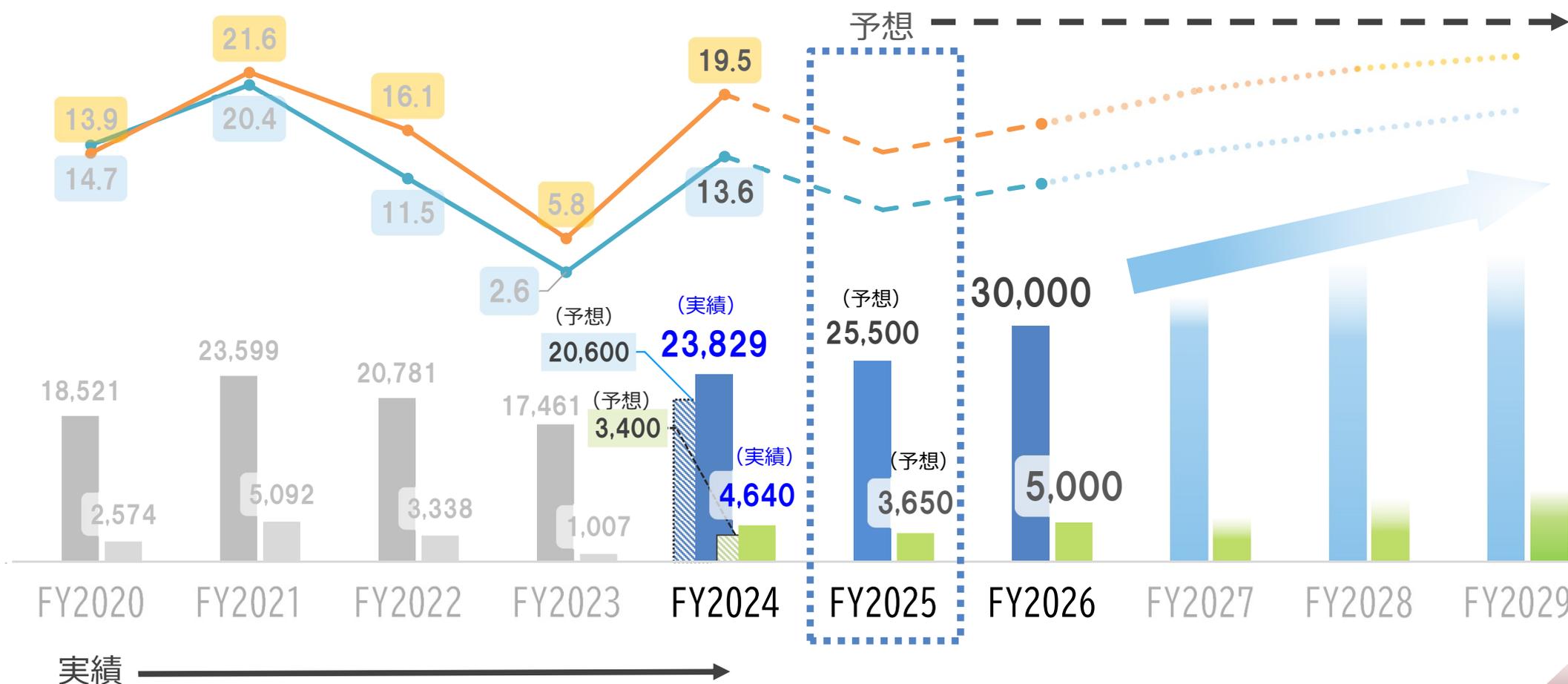
30,000百万円

経常利益

5,000百万円

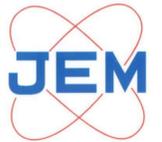
(単位：百万円) ■ 売上高 ■ 経常利益

(単位：%) — 連結経常利益率 — ROE



Your Probing Partner

2024-2026年度中期経営計画



単位：百万円

		2024年度	2025年度	2026年度
設備投資	計画	11,500(2024-2026年度投資計画、2025/5/14修正後)		
		4,400	4,200	2,900
	実績	4,015	—	—
研究開発費	計画	6,300(2024-2026年度投資計画、2024/5/14公表値)		
		1,900	2,000	2,400
	実績	1,538	—	—

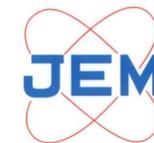
■2024年度は、熊本事業所 新棟、並びに先端半導体用を中心としたメモリー向けプローブカードの生産キャパシティ強化向け等に積極的な設備投資を行いました。また、研究開発投資につきましても、更なる製品力の強化に向けて推進いたしました。

■2025年度は、需要が旺盛なメモリー向けプローブカードを中心に生産キャパシティ強化、生産合理化への設備投資を一層積極的に実施し、製品力強化に向けた研究開発投資を行い、市場ニーズに応じてまいります。2026年度につきましても、本中期経営計画の達成と、2027年度以降も需要に応え、市場以上の成長を目指すための先行投資を含め、引き続き積極投資により製品力・生産キャパシティを強化してまいります。

■以上の市況を踏まえた投資計画の強化により、2024-2026年度の設備投資につきましては、2024/5/14公表の8,500百万円から11,500百万円へ修正いたしました。

Your Probing Partner

株主還元(配当方針)

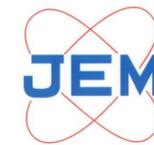


当社は、株主の皆様に対する「安定的な利益還元」を重要な経営方針の一つとしております。

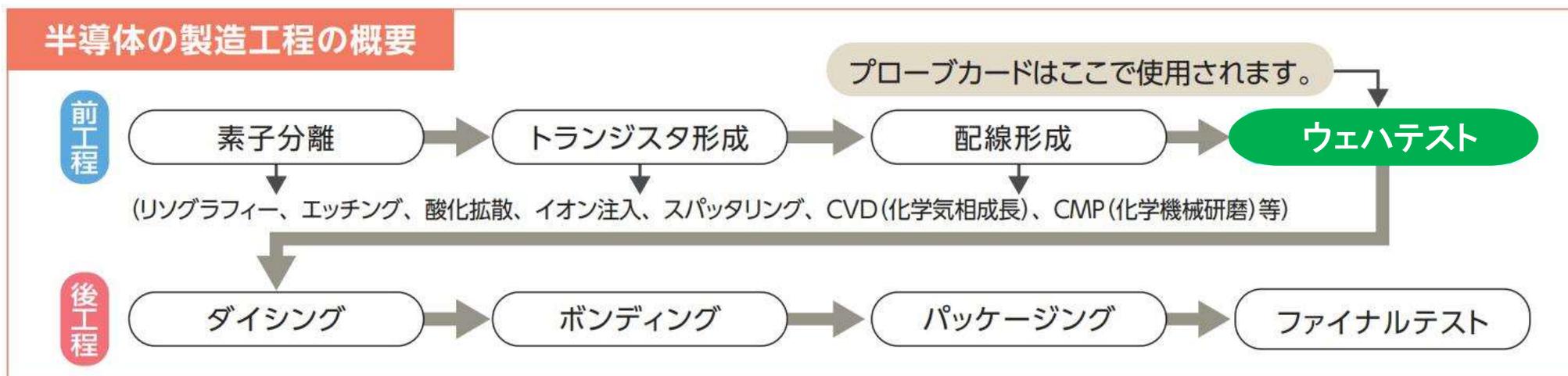
2024-2026年度中期経営計画においては、設備投資と研究開発を中心に「将来に向けた成長投資」とのバランスを取りながら、株主の皆様へ安定的・継続的かつ利益に見合った配当を実施する方針です。

本方針を踏まえ、2024年度につきましては、連結業績を踏まえつつ、将来に向けた成長投資を勘案し、中間配当は30円、期末配当は40円（内、5円は創立65周年に係る記念配当）の年間合計70円といたしました。

中期経営計画の達成に向けて

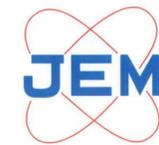


プローブカードは、半導体製造のウェハテストで使用され、その市場は半導体市場とともに更に成長すると予想しており、JEMグループは、顧客ニーズに応えるプローブカードの開発と供給を社会的使命として、積極的な投資による製品力と生産キャパシティの向上により更なる発展を目指しています。



Your Probing Partner

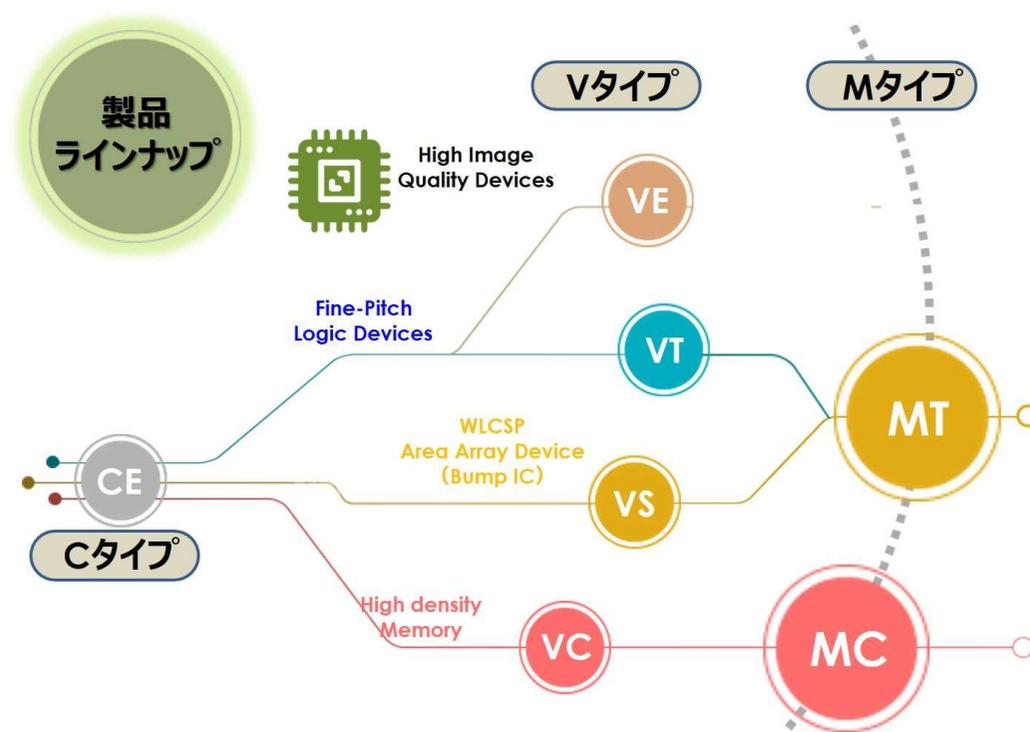
中期経営計画の達成に向けて



このような事業環境のなか、JEMグループは、拡大する市場環境を支え、市場以上の成長を目指す2024-2026年度の中期経営計画を推進しています。

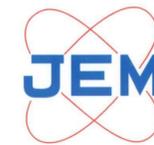
プローブカードには、半導体の進歩とともに微細化・高密度化、高耐電流特性、高周波特性等の技術進化が求められます。

JEMグループは、技術開発力と蓄積した知見をもとに、MEMS技術を活用したMタイプを主力製品として、開発投資による一層の製品力の向上により顧客ニーズに応えるとともに更なる発展を図っております。



Your Probing Partner

成長に向けた取り組み



生産体制

旺盛なMタイププローブカード需要を背景に、熊本事業所の新棟が稼働開始したことで2025年度内には生産キャパシティを30%Upします。将来的には現在の2倍以上に生産キャパシティを引上げ、これからも成長を続ける半導体市場を支えてまいります。



熊本事業所 新棟

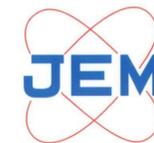
2024年10月 熊本事業所 新棟竣工
2025年4月 稼働開始



熊本事業所 全体

Your Probing Partner

成長に向けた取り組み



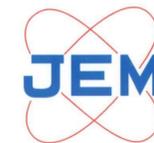
メモリー分野

生成AIの普及をはじめとして、データランザクションの需要は増加の一途を辿っており、メモリーデバイスの重要性がさらに高まっています。当社グループは、得意とするメモリ向けMタイププローブカードの製品力を一層強化し、生産キャパシティの拡充を進めることで、市場のニーズに応じてまいります。

ロジック分野

生成AIを支えるサーバー群、エッジAIを支えるエンドポイントアプリケーション、これらが利活用される自動運転技術やスマートフォンなどによるサービス、そしてこれらのシステムやサービスを支えるシステムLSI やセンシングデバイス向けに、Mタイププローブカードの製品力を強化し、拡大し続ける市場を支えてまいります。

成長に向けた取り組み



DX投資

DXの専門部署のもと、自社専用の生成AIの構築、外部の専門機関との連携を図り、事業活動の合理化と省力化、並びに付加価値の創造による競争力強化への投資を行っております。

人的投資

人財育成の専門部署のもと、社内体制の強化と社外教育の活用による教育研修を展開し人財育成を促進しております。また、より良い労働環境と貢献意欲の創出のために、人事制度の見直しと、組織診断サーベイの活用を推進しています。

サステナビリティ

経営理念・経営方針のもと、サステナビリティへの取り組みをより具体的かつ計画的に推進し、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を図るため、2024年6月にサステナビリティ委員会を設置しました。

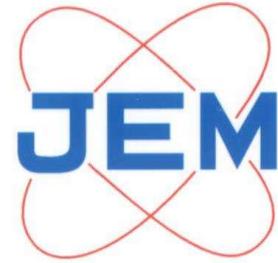
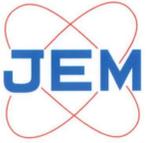
このサステナビリティ委員会のもと、テーマ別に設けた7つの実行組織により、社会に対する価値提供と、当社の競争力の維持向上を両立しながら長期にわたって持続的成長が可能な企業を目指し活動しております。

Your Probing Partner

将来の見通しに関する記述について

本資料で記述されている予想値および計画値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績等は記述されている数値とは異なる結果になる可能性があることをご承知おきください。



Your Probing Partner

Your Probing Partner